

2006 年度 関西学生サッカーリーグ記者会見 から

日時：9月4日（月）19：00～

場所：大阪新阪急ホテル

- 各チーム監督・選手などのコメントの前に…
国際審判員の廣嶋さんを特別ゲストとしてお招きし、
「関西学生サッカーリーグ功労賞」の授与式が行われました。

2006 FIFA ワールドカップ ドイツ大会で日本人初の副審として活躍され、3 位決定戦の副審された廣嶋 禎数 さんは、大阪体育大学在学中、関西学生サッカー連盟の学生幹事長でした。

現在のご活躍は学生サッカーに関わるものにも大きな励みになっています!!

その功績を称え、功労賞が贈られました。



(写真右が 廣嶋 禎数さん)



「自身としては、やりたくて審判を初め、特にまわりの方
地元の方に迷惑をかけながら支えてもらって、好きなこと
をやってきた結果なので、本当は自分が皆さんにお礼を
しないとイケないぐらい…。

学生の時 2 年から学連の仕事をさせて頂き、幹事長も務めました。この学連に入ったというのが自分にとっての大きなターニングポイントで、大学の時には審判でワールドカップに行こうとは思っていなかった。学連に入ったことで審判の方や大学の指導者の方に色々教えて頂いて、選手としても指導者としても審判としても大きく成長させて頂いた。その結果がワールドカップにつながったと思う。

関西の中から日本を代表する選手とともに、審判も育ってほしいと思います。本日はありがとうございました。」

1 部リーグ 監督コメント

京都産業大学：古井 裕之 監督

「春リーグでは 1 部復帰をスローガンにしてやってきた結果、何とかリーグ戦を全勝で追え、順位決定戦でも勝て、思い通りに形を運べた。勝てたのは 90 分走りきるといふそのスタンスをやり続けた結果。夏は、それをもう一度その気持ちを忘れないよう、走ることは他のチームに負けないということで合宿では走り込みをした。

レギュラーも 1・2 年中心の若いチームだが、ここをしっかりと乗り切れば 1 部定着も見えてくると思うので、1 部に残るといふことを頭において頑張っていきたい。」

大阪学院大学：熊田 喜則 監督

「春はケガ人が出、その回復も遅れ、そういう結果が入替戦につながったかなとも思っており、全体的に底上げができなかったかなというのが全体としての反省。

春から 1・2 年生中心に底上げをはかり、新人戦は関学と同点ながらも優勝できた。プラスアルファをその中からどうやって持っていこうかなと考えている。まずは、初戦の関大戦に全力でのぞみたい。」

関西学院大学：阿部 洋夫 監督

「春リーグではバタバタした内容だったけれど、それだけの内容しかできないチームだったかなと思っている。夏合宿では、切り替えのときの重要性というのをたくさん話し重点的にやってきた。

DF はある程度計算ができるが、真ん中のほうでどうもボールを奪われる機会が多かったが、稲田がちょっと一皮向けてきたかなと思いき期待している。勝ちにこだわった内容のゲームをしてほしいというのが一番なので、あくまでも一番目指します。」

同志社大学：望月 慎之 監督

「春リーグでは、何シーズンにかぶりに入替戦を回避できた。選手たちも頑張ってくれたし、自信になったとも思う。失点の形がある程度自分たちのミスということが明確になったので、夏はそこを改善していくことで秋に向けたトレーニングを重ねてきた。

今年のチームのテーマは“Make the Team”で、同志社らしいサッカーを見つけてそれを実践していこうということでスタートを切ったが、この秋がその総決算のリーグだと思っている。選手たちには自分らしいプレーをして、それが同志社らしいサッカー、結果に結びついたらと思っている。」

阪南大学：須佐 徹太郎 監督

「夏は、春リーグでは G 状態が悪かったり、自分たちがうまくいかない…など、条件がちょっと悪い時、チーム状態が良くなかった分、それをどう克服するかというのをやってきた。そういう点ではかなり頑張れるようになってきたと思う。

秋は積極的に攻撃的なサッカーをやっていきたいのと同時に、夏は攻撃を失敗した後、いかに早く守備の組織を作るかという点に重点をおいて練習を仕込んできた。ポジションのコンバート等もしてきたので、頑張れると思う。」

立命館大学：米田 隆 監督

「春リーグでは毎年のことながら、波がある中、どういう形で今年はやれるのかなという所でやっていき、うまくトーナメントに入って色を出せ、それを貫けたのが総理大臣杯の結果につながったというのが大きかった。

立命の選手はネガティブに考えるよりも、攻撃性を打ち出し、攻めて勝つという部分を強調したほうがうまくいくと思っている。選手たちのタイプをみてもそう思うので、秋も迷うことなく、攻めて勝つという姿勢で頑張りたい。総理大臣杯の優勝は一旦忘れ、一から甘えなしに一戦一戦やっていくことが必要だと思うので、注目されるのはよしとして、それを跳ね除けて、一つ一つ湯浅主将を中心に戦ってくれると思う。」

大阪体育大学：坂本 康博 監督

「今のチームは自分が見て 1 年半のチームで、今年いっぱいチームを作ろうかという状況の中、春リーグの収穫は大負けしなかったということ。トレーニングの方法をいろんな意味で変えているので、そのトレーニングの成果がこの秋にでてくれたらなと思っている。

チームは若いメンバーだが、たぶん活躍してくれるのは選抜に入るなど、名前があがっていない選手だと思う。ただ、2 年生の右のサイド、山道、左の前の森あたりがかなり活躍してくれそうな気がする。

秋は 4 位以上に入って、また、春に続いてフェアプレー賞もあわせて狙っていきたい。」

桃山学院大学：松本 直也 監督

「春リーグは悪くはなかったが、先日の天皇杯の準決勝で佐川に 4-5 で負け、また守備の課題が見つかったのかなという感じ。秋はもう一回守備から入りたい。4 年生最後のシーズンになるので、GK の金やセンターバックの木村、井上といった守備の要に期待している。

個々の能力は他のチームに比べると劣るので、全員攻撃全員守備だけではないが、そういうサッカーを展開できればと思っている。」

関西大学：川端 秀和 監督

「天皇杯出場を決めた試合は、最後まで試合をあきらめずに選手が頑張ってくれたことが良かった。

関大はどうしても攻撃的なところを見られるが、まずディフェンス。前からのディフェンスをして、まずは失点せず、チャンスがあれば得点するというのを心がけてやっている。関西選手権も天皇杯予選もそうだが、関大らしさといったひたむきなサッカーで、リーグ戦は 90 分間最後まであきらめずに全員が一つになって勝利に向かってやるといったことを目指したい。」

近畿大学：田中 幸雄 監督

「春リーグ優勝は、終わってみれば勝てた、優勝できたということで、あまりまだぴんときていない。

近大は突出した選手がおらず、みんな平均的かちょっと平均から落ちる選手なので、全員で守って全員で攻めようと、キャプテンを中心にそれを進めていっている。

あくまでも発展途上のチームなので、挑戦者のつもりで、もう一回再チャレンジという気持ちでやっていこうと思っている。あとはキャプテンがどれぐらい選手をまとめてチームワークを作ってくれるかに期待したい。」

1 部リーグ 選手コメント



<大院大>

笹垣 亮介 キャプテン (↑写真右)

「チームは夏に走り込んで精神的にも肉体的にも強くなった。チーム状態もいい状態。目標は、インカレ出場が出来る順位に入ってインカレに行くこと。」

上田 貴典 選手 (↑写真左から2番目)

「チームは結構走り込んで守備とか連動してるんで、個人の力じゃきつい面もあると思うので、組織の力で高い位置でプレスをかけて、取ったら素早く FW にあてて攻めていきたい。初戦の関大はサイドが早いので注意して粘り強く勝ちたい。」

<近畿大>

吉居 昭治 キャプテン (写真左→)

「春の優勝はまわりもそうだと思うが、僕達自身まぐれと思ってるので、しっかりそれを実力だっているところを示せるように頑張りたい。開幕戦は大事なのでしっかり研究してやっていきたい。」

<京産大>

山領 真都 キャプテン (写真右→)

「1 部昇格後すぐ1 部で優勝した近大の姿は僕たちの胸にある。優勝狙うつもりで頑張っていく。秋に向けて今までやってきたことを十分に活かして、自分達のいい部分を出しながら、初戦で勝点 3 をとってその後の試合にもつなげていきたい。」

<関西大>

松田 智志 キャプテン (←写真左)

「夏は、話すということをテーマに常に言ってきたので、そういう部分ではしっかりコミュニケーションが取れ、悪いリズムを立て直せるようになってきたんじゃないかと思う。」

目標はインカレ優勝だが、初戦集中してコンディションとメンタル的な部分も最高に持って入っていきたい。

安藤 淳 選手 (←写真左から2番目)

「点が取れるところは今のチームのいいところだが、まだまだ課題はある。攻撃がうちのウリと言うところはあるけど、守備も目立てるように頑張りたい。」



<大体大>

麦田 和志 選手 (←写真左)

「この夏でチームも春よりはレベルが上がってきたと思うし、チームも雰囲気良くなってまとまってきたと思うので、いい感じに仕上がってきたと思う。優勝目指して頑張っているんで、まずは初戦から気を引き締めて頑張っていきたい。」

<同大>

細川 史生 キャプテン (←写真中央)

「昨日の天皇杯予選で優勝することが出来、夏の合宿の成果が少しずつ現れてきているのでこの勢いで秋リーグは頑張りたい。」

初戦の相手は、迫力のある攻撃があるので、迫力に負けないように、自分達も迫力をもって戦っていききたい。」



森下 智文 選手（↑写真右）

「今日初めてプログラムを見…恥ずかしい気分はあるが、みんなに顔がわかってもらえてる分も一生懸命頑張りたい。プレーとしては点を取ることを一番の課題としてやっていきたい。」

<桃山大>

木村 允彦 キャプテン

「北海道合宿では走ることを意識し、走り勝つサッカーで頑張りたいと思う。初戦の相手の関学は個人でうまい選手が多いので、まずは一対一で負けないように北海道で学んだ走ることを活かして絶対に勝ちたい。」

<関学大>

山本 悟史 キャプテン

「夏合宿のあとに東京遠征があったが、そこであまりいい結果が出ず、それがいい経験になっているので、自分達がやりたいサッカーというのをやっていきたい。チーム的にはセットプレーに弱いというがあるので、そこを改善してあとは自分達がやりたいサッカーをして勝ちにいきたい。」

小野原 明男 選手

「選抜で得た経験を活かして守備の面でチームに貢献できればいいと思う。」

（桃山大・関学大の写真は掲載できておりません。申し訳ありません。）



<立命大>

湯浅 隆二 キャプテン（←写真左）

「リーグが 5 位だったので、どう立て直していこうかとチーム皆で話し合い、勢いも出て優勝することが出来た。関西では春 5 位だったので、総理大臣杯の優勝は関係なく、しっかり関西でいい結果を残したい。秋リーグは長丁場なので最初しっかり勝って勢いにのせていけたらと思う。」

相手は関係なく問題は自分らにあるので、自分らが自分らのサッカーが出来るようにというのを第一に考えてやっていきたい。」

修行 智仁 選手（↑写真中央）

「チームが勝てるようにそのために何が出来るか考えてプレーできたらいいと思っている。GK なので、DF ラインをしっかり動かすことが出来ればいいと思う。」

<阪南大>

松岡 亮輔 キャプテン（↑写真右）

「チームの仕上がりは、リーグに来て見てもらえればわかると思う。春から比べてチームがまとまってきたのでみんなで丸となってゲームに入っていける。メンタルな部分を含めて、コンディションを常に高めていければと思っている。」

●全日本大学選抜オランダ遠征メンバーも出席し、遠征の感想などを述べました（橋本 和 選手は欠席）。



吉村 修平 選手（関西大）（←写真左）

「オランダの選手はみんな大きくて足が速くて体が大きくてその中で世界のレベルの中で足りないものがたくさんあるなと感じた。判断のスピードどの速さやポジショニングなど…。」

世界のレベルの高さを肌で感じたので今後のサッカー人生に活かしていきたい。

秋は常に試合に出ることを意識して全力で頑張りたい。」

古部 健太 選手（立命大）（↑写真中央）

「全日本選抜の皆はうまい人ばかりで、うまいだけでなく頑張れる選手だったので、そういうのをもっとみ見習っていきたく思った。大学に入るまでは選抜には無縁で、こういう場に呼ばれることも全くなかったので、いい経験になった。秋は一試合一試合集中してやるだけです・」

永田 亮太 選手（立命大）（←写真右）

「全日本のチームではすぐみんな仲良くなれたし、楽しく出来たという感じ。ずっと海外のチームと対戦できたのは自分にもプラスになったし、相手の体が大きい分、考えることもあったんでそれがプラスになった。今まであんまり知られてなかったんで、この経験で知られた部分もあると思うので、プレッシャーの中で楽しくやっていきたい。」

●関西学生選抜オーストラリア遠征メンバーも出席しました。



<松本 直也 監督>

非常に厳しい日程の遠征だったが試合はもちろん、学生自身は交流と言う部分でも学生らしさというか、色々な経験が出来た遠征だった。遠征中にも選手には言ったが、これは一つの通過点。秋の関西リーグ、来春のデンソーカップ、また来年タイで行われるユニバーシアードに是非このチームから入っていけるようにということを常に目標として言っていた。遠征に参加した選手、全日本の選手等を中心に秋のリーグ戦は必ず盛り上げてくれると期待している。

<小野原 明男 キャプテン>

今回の遠征に参加して非常に厳しい環境の中での試合でしたが、第1戦目ではあまりチームとして機能しなかったが、個々がしっかりしたプレーをしたので勝利をすることが出来、第2戦ではチームとしてちぐはぐして不甲斐ない試合をしてしまったが、最後（第3戦）にチームとしてみんなでまとまって試合をした結果が6-1という大量得点の勝利だったと思うので、成果は出たと思う。この経験をしっかりとこの秋のリーグ戦に活かしていきたいと思います。